

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年5月24日(2018.5.24)

【公表番号】特表2016-508821(P2016-508821A)

【公表日】平成28年3月24日(2016.3.24)

【年通号数】公開・登録公報2016-018

【出願番号】特願2015-561355(P2015-561355)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/16 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/16

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年4月6日(2018.4.6)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 7】

ある特定の実装形態では、ブランジャ先端部チャンバは、第 1 のブランジャ先端部のブランジャとの整列と、第 2 のブランジャ先端部のブランジャとの整列との間で交互に切り替わるように適合されてもよい。ブランジャ先端部チャンバは、例えば、第 1 のブランジャ先端部をブランジャと、第 2 のブランジャ先端部をブランジャと、交互に整列させるために、横方向に移動可能であることによって、どちらのブランジャ先端部がブランジャと整列するかを変更し得る。ブランジャ先端部チャンバは、例えば、第 1 のブランジャ先端部及び第 2 のブランジャ先端部を保持し、ブランジャ先端部チャンバ内を横方向に移動して、第 1 のブランジャ先端部及び第 2 のブランジャ先端部を交互にブランジャと整列させるように適合されるカセットを含む。特定の実装形態では、カセットは、第 1 のブランジャ先端部がブランジャと整列する第 1 の位置中に固定され、第 2 のブランジャ先端部がブランジャと整列する第 2 の位置に固定されるように適合され得る。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 3】

特定の実装形態では、どちらのブランジャ先端部が長手方向の軸線と整列するかを変更することは、第 1 のブランジャ先端部を、長手方向の軸線と整列している状態から、横方向に移動させて、第 2 のブランジャ先端部を長手方向の軸線と整列させることを含み得る。第 1 のブランジャ先端部を、長手方向の軸線と整列している状態から横方向に移動させて、第 2 のブランジャ先端部を長手方向の軸線と整列させることは、例えば、ブランジャ先端部を保持するように適合されたカセットを横方向に移動させることを含んでもよい。本過程はまた、カセットを、第 2 のブランジャ先端部が長手方向の軸線と整列する位置で固定することを更に含んでもよい。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0024】

ブランジャ先端部チャンバ140は、第1のブランジャ先端部180及び第2のブランジャ先端部190を保持するカセット142を含む。カセット142は、長手方向の軸線121に対して横方向に移動可能である。カセット142を移動させるために、カセット142は、筐体120の外側に延在するつまみ144を含む。つまみ144を押すことにより、カセット142を横方向に移動させることができる（例えば、滑動させることにより）。カセット142はまた、第1のブランジャ先端部180がレンズチャンバ150に向かって移動するときに圧縮される、パネ146も含む。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0033

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0033】

次に、ユーザは、つまみ144を従事させ、長手方向の軸線121に対して横方向にカセット142を移動させ得る。この移動によって、第1のブランジャ先端部180がブランジャ110から離脱する。故に、第1のブランジャ先端部は、もはや長手方向の軸線121と整列していない。移動はまた、図4で最も分かり易く見られる通り、第2のブランジャ先端部190を長手方向の軸線121と整列させる。一部の実装形態では、爪及び／またはロックを使用して、ブランジャ先端部チャンバ140内のカセット142の移動を制御し得る。例えば、カセット142は、ブランジャ先端部チャンバ140の部分を係合（例えば、それに当接）して、その運動を停止させてもよい。別の例として、カセット142は、ブランジャ先端部チャンバ140の壁部に凹ませた1つ以上の開口部を係合するバネ様部材（例えば、アーム及び／または戻り止め）を含んでもよい。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0050

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0050】

過程800は、加えて、第1のブランジャ先端部からの離脱も指示する（動作824）。脱離は、例えば、第1のブランジャ先端部を長手方向の軸線に対して横方向に移動させることによって遂行されてもよい。故に、第1のブランジャ先端部は、もはや長手方向の軸線と整列していなくてもよい。ブランジャチャンバ中のカセットは、例えば、第1のブランジャ先端部を保持し、カセットの移動によって、第1のブランジャ先端部は横方向に移動する。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0051

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0051】

過程800はまた、長手方向の軸線との第2のブランジャ先端部の整列も指示する（動作828）。第2のブランジャ先端部の整列は、例えば、第2のブランジャ先端部を保持するカセットを横方向に移動させて、長手方向の軸線と整列させることによって遂行されてもよい。